

ともに歩む



新発田市立藤塚小学校
人権教育、同和教育便り
令和4年7月26日 No.1

人権教育、同和教育に取り組んでいます

藤塚小学校では、令和3年度に引き続き、校内研修で人権教育、同和教育を推進していきます。「互いに認め合い、共に生きようとする子どもの育成」を研究主題として、人権学習を行っています。昨年度の研究会では、他校の先生方から子どもたちの授業に臨む態度を褒めていただきました。今年度は、他教科との関連を図りながら、子どもたちの課題に向かう意欲を高めていきたいと考えています。

学習参観の際には、お子さんの学習の様子を見ていただき、ご家庭でも話題にしていただくことで学習がより深まっていくと思います。



【1年生の授業の様子】

1学期の授業の様子

6年生 「君の家にも牛がいる」

「君の家にも牛がいる」という絵本を資料に、1頭の牛から様々なものが作られ、自分たちの生活に役立っていることを知りました。「鳴き声以外捨てるところがない」という言葉から、子どもたちは、「牛は人の生活を支えているから、ありがたい気持ちを持ちたい」という感想や、「牛の命をいただいているのだから、少しのものもむだにしないようにしたい。」という感想を持ちました。

また、牛を解体する方は高い技術をもっているということを知り、少しも無駄にしない職人の方へ尊敬の念をもち、職人の方がいるおかげで自分たちの生活が豊かになっているという感想をもちました。

2学期も人権学習を続け、子どもたちの命や差別への考え方を深めていきます。





2年生 「まけるものか」

「まけるものか」は、年をとって足が思うように動かなくなっても歩く練習に励むおじいさんのお話です。おじいさんが買い物の帰りに横断歩道を渡っていると、途中で信号が点滅します。すると、車に乗っていた人から「もたもたしないで、さっさと渡れ。」と怒鳴られたり、「年寄りや、外に出るとじゃまだ。」とか「年寄りや、無理しないで大人しくしていればいいのに。」と言われたりします。

高齢者疑似体験を思い出した子どもたちは、あきらめずに歩く練習をがんばるおじいさんに対して、すごいという気持ちをもちました。そして、横断歩道でひどいことを言う運転手には、「お年寄りや足が遅くて当たり前だから、強く言わなくてもいいのに。」、「頑張っているおじいさんの気持ちや苦しみがわからない。」、「お年寄りが外に出てもいいのに。」、「待つてあげればいいのに。」と強く憤っていました。

「もし、自分がその場にいたらどうするか。」と問うと、「近くの人や警察に言う。」、「おじいさんの荷物を運ぶ。」、「おじいさんが起きるのを手伝う。」、「運転手に待ってくれるように言う。」、「手を組んで一緒に歩く。」など、全員がおじいさんを助けたいという気持ちを持ち、できることを一生懸命に考えていました。

授業の最後には、高齢者疑似体験の講師の話や、ささえ愛ゆうでの触れ合いを思い出しながらこれからお年寄りやとどのようにかかわっていきたいかを考えました。子どもたちのふりかえりには、「やさしくしたい。」、「たいへんそうだったら助けたい。」という言葉がたくさんありました。

社会福祉協議会の方から教えていただいた高齢者疑似体験の様子

